



北見赤十字病院 がんサロン ほほえみ

ほほえみ通信

Vol. 126

2019/9/26 発行

第126回 ほほえみ 開催

9月18日（水）第126回 ほほえみを開催しました。
今回は6名の方が参加してくれました。



【がんサロン事務局より】

次回のほほえみは、10/16（水）14時から16時まで
本館3階 特別会議室での開催となります

『“がんを告白する”ということ』

（がん体験記）

みなさんは、がんであることを周囲に伝えていますか？

私はがん告知を受けたとき、まずは同居していた両親に、そして一部の友人、知人にだけ話しました。

ただ困惑したのは、ご近所さんや親戚に伝わってしまったこと。手術を終え治療に入ってもしばらくの間は病を受け入れることができなかつたため隠したい気持ちがありました。どうも両親が喋ってしまったようでした。

新しい職場にも、がんであることを隠して就労していたことがあります。それは、「がんだと雇ってもらえない。がんであることを知られてしまうと解雇されるかもしれない」という不安があったからです。

でも今は、“がん”という病気も周知されるようになってきたように思います。“日本人の2人に1人ががんになる”という確率は、もう誰がなってもおかしくない。決して“他人事”ではないことも現実のものとして受け入れられるようになったからかもしれません。

そして社会に最も影響を与えているのは、芸能人や著名な方たちのがんの公表かもしれません。それは社会的な反響だけではなく、なにより私たちががん患者・経験者に、勇気と希望、大きな励ましをもらうことが大きいように感じます。

公表は、勇気が要ることだと思います。私は隠し通したい思いと裏腹に、隠していることがつらいこともありました。それは、病気のことを知らない方が放つ言葉に傷つくことも多かったからです。でも、周囲に話すことで自分自身が楽になりました（聞かされた方はどんな対応をしてよいのか困ったかもしれませんが）。そして、がんであることを口にするだけで、誰かのためになるかもしれない。だから今は堂々とがんのことを伝えていきたいと思っています。

どこか、「がんである自分が恥ずかしい」。そんな思いを持っていた自分を、今は恥ずかしく感じています。

（北海道／女性／乳がん／がん患者本人）